

令和8年度第2回さいたま市社会教育委員会議 次第
(第13期第5回会議)

日時：令和8年8月24日（月）
10時00分から
会場：ときわ会館 小ホール

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

(1) 報告事項

- ・ 前回会議について

(2) 協議事項

- ・ 第13期さいたま市社会教育委員会議ワークショップについて

4 連 絡

5 閉 会

令和8年度第2回(第 13 期第5回)さいたま市社会教育委員会議 出席者名簿

No.	氏 名	選出母体等	備 考
1	石川 敬史	十文字学園女子大学教授	
2	岩城 明子	さいたま商工会議所女性会理事	
3	梶野 光信	日本大学教授	
4	河合 裕	さいたま市中学校長会	
5	小林 玲子	さいたま市公民館運営審議会	欠席
6	澁谷 知範	さいたま浦和地区保護司会理事	
7	関根 広美	認定特定非営利活動法人さいたまNPOセンター専任委員	
8	田中 亜弓	公募委員	
9	鶴ヶ谷 柊子	浦和大学准教授	欠席
10	野津 美智代	さいたま市立小学校校長会	
11	橋本 洋光	公募委員	
12	宮島 和宣	青少年育成さいたま市民会議	
13	矢作 修一	公募委員	
14	吉川 洋一	公益財団法人さいたま市スポーツ協会副会長	欠席
15	和田 洋樹	さいたま市PTA協議会会長	

(50 音順)

(事務局)

1	深津 健太郎	教育委員会事務局生涯学習部長
2	八島 典子	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課長
3	安藤 紘子	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課副参事
4	柳田 正明	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課参与
5	山本 直子	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課企画振興係長
6	坂本 聡	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課企画振興係主事
7	駒井 友里香	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課企画振興係主事

令和8年度第1回（第13期第4回）さいたま市社会教育委員会 会議録

開催日時：令和8年6月29日（月）14時00分～16時00分

開催場所：さいたま市立中央図書館 イベントルーム

出席者名：【委員】梶野 光信議長、石川 敬史副議長、澁谷 知範委員、
田中 亜弓委員、橋本 洋光委員、宮島 和宣委員、
矢作 修一委員、吉川 洋一委員、和田 洋樹委員

【さいたま市市民活動サポートセンター】

平野 賢二主査

【市民協働推進課】

石井 崇課長補佐

【事務局】（生涯学習部） 深津 健太郎

（生涯学習振興課）八島 典子、安藤 紘子、柳田 正明、
西形 和人、山本 直子、三村 悟、
伊藤 泰昌、坂本 聡、駒井 友里香

欠席者名：岩城 明子委員、河合 裕委員、小林 玲子委員、

関根 広美委員、鶴ヶ谷 柊子委員、野津 美智代委員

公開・非公開の別：公開

傍聴人の数：なし

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

(1) 報告事項 前回会議について

令和7年度第4回会議の概要について、会議録に基づき説明した。

(2) 協議事項

ア 令和8年度 社会教育関係団体補助金について

令和8年度の社会教育関係団体補助金について資料1に基づき説明し、意見を聴取した。本件について、意見や質疑はなかった。

イ ワークショップ

(ア) 事業説明

資料3及び資料4を基に、さいたま市市民活動サポートセンター様より、事前質問への回答と事業概要の説明が行われた。

【事前質問回答】

＜平野主査＞

事前にいただいた 13 の質問で類似しているものもあるため、いくつかまとめて回答することとする。

- ① 施設の貸出し以外で行っている市民団体同士を結び付ける活動や、市民団体結成を促す活動などの能動的・アウトリーチ的な活動状況を教えていただきたい。（事前質問②）

＜平野主査＞

市民活動団体にコミュニティセンターまつりへ参加してもらうことで、活動範囲の拡大や分野・地域を超えた参加団体同士の交流・親睦を図るとともに、会場近隣の住民に活動のPRを行っている。その際に、私たち職員も団体と団体の橋渡しを行うとともに、出張相談会や出張フードドライブマッチングなどを同時開催し、施設紹介や事業PRを行い交流を図るよう努めている。

- ② 同じ施設内にある中央図書館との連携について教えていただきたい。また、その他の機関等との連携があればお聞きしたい。（事前質問④）

＜平野主査＞

現在、中央図書館との具体的な連携はなく、広報物の配架依頼は行っている。当施設には親子で過ごすことができるプレイルームがあり、絵本などが設置されているので、絵本の選定や読み聞かせの事業などで連携を図っていけるといいのではないかと考えている。

その他の機関との連携について、当施設の運営母体であるさいたま市文化振興事業団が運営するアーティスト情報バンク「SaCLa アーツ」の登録団体と当施設の市民活動団体とのコラボ事業を開催している。また、逗子文化プラザ市民交流センターや八王子市市民活動支援センターへ視察に行き、職員の方との交流を図り、当施設で開催した講座の講師を務めていただいた。その他に、さいたま市生涯学習相談ボランティア「えらべる」に当施設のスタッフが講師として施設紹介や講座紹介、事業紹介を行う取組もしている。企業との交流としては、今年が初めてとなるが、浦和パルコ様と協働でフードドライブを実施する計画がある。

- ③ （公民館等の社会教育施設における学習機会との関わりの中で、）サポートセンターとしてどのように市民活動に関する学びの機会を提供されているかお聞きしたい。（事前質問⑤）

＜平野主査＞

事業は年間計画を立て、学習の機会を提供する講座や交流を促すイベント事業を実施しており、年に1回、サポートセンターフェスティバルを開催している。学習の機会を提供する講座としては、パソコン講座やNPO 法人会計基礎講座、防災講座、市民活動入門講座などを行っている。また、社会情勢に合わせて、ChatGPT 入門講座やCanva を使ったチラシ作成講座なども行っている。

- ④ 市民活動に関する講座や相談等について、参加された方がその後の活動に繋がる工夫があればお聞きしたい。（事前質問⑥）

＜平野主査＞

相談は窓口、メール、電話、FAX 等で受け付けている。最近はメールの問合せフォームからの相談が多いが、伴走型支援として、団体と一緒に相談をしていきたいと考えているため、なるべく当施設に一度お越しいただくよう促している。

過去の事例として、団体の立ち上げからご相談いただき、会則の作成を共に行ったり、会計の基礎講座や交流イベントをご案内したりなど、団体がスムーズに活動していけるよう支援を行った。

- ⑤ 若年層や配慮を要する方々への参加促進について、公民館や学校、関係部署とのつながりも含め、日頃意識されている点や取組があれば教えていただきたい。（事前質問⑦）

＜平野主査＞

なるべく若い方が市民活動に参加する機会を増やしたいと思っている。過去に行った例だと手話パフォーマンスをしている市民活動団体と、岩槻の開智中学高等学校の探求学習として地域 SDGs に関する調査研究をしている高校生との交流事業を行った。また、埼玉栄中学高等学校の総合探究部と SDGs さいたま応援団と一緒にプラスチック問題を考える事業を開催した。

また、近隣の地域連絡協議会関連の小中学校 15 校に対して、サポートセンターフェスティバルでラウンジを彩るアートフラッグの色付けをしていただいて、小中学生がサポートセンターに来館するきっかけを提供した。

- ⑥ 市の各部局や企業・大学との連携により活動の広がりが見られた事例があれば、（公民館等との関わりを含めて）ご紹介いただけますと幸いです。（事前質問⑩）

＜平野主査＞

大学については、浦和大学にサポートセンターフェスティバルのイベントの企画や当日の受付を協力いただき連携を図った。また、日本大学の学生を毎年インターンシップで受け入れており、学生の視点で市民活動入門講座の事業企画を立案していただき、立案された事業計画を基に当施設の市民活動団体が講師として講座を開催した。

さらに、昨年は東京都立大学の東日本きずなプロジェクトというボランティア団体、慶應義塾大学の発達障害支援会 KDDS というボランティア団体、当施設の活動団体、一般市民を交えた学生 SDGs 講座という講座を開催して学生との交流を図りました。

- ⑦ 行政の各部局との連携により、地域課題の解決につながったと感じられる事例がありましたら、（公民館等との関わりも含めて）ご紹介いただきたい。（事前質問⑫）

＜平野主査＞

過去に岩槻区のコミュニティ課と連携して、岩槻駅周辺を当施設の活動団体の案内で歩き、「よりよいまちにするためには」というテーマで交流を図った。その際に高

校生ファシリテーターにもグループワークに参加していただき、進行を務めていただいた。

また、夏祭りパネル展という事業では、さいたま市にある３つのガイド会にお声がけし、合同で展示会を開催していただくことで団体同士の交流の繋がりをサポートした。

⑧ 今後、公民館等の社会教育施設とサポートセンターがどのように関わり合いながら市民の学びや活動を支えていくことが望ましいと考えているか、可能な範囲でご意見をお聞きたい。（事前質問⑬）

<平野主査>

サークルと市民活動団体との明確な違いを説明しながら、公民館で活動しているサークルをもう一步進めて、市民活動団体として私たちがバックアップしていくという流れが理想的かと考えている。

また、当施設で相談を受けた市民を公民館の講座や地域活動へつなげるなどの関係が望ましいと考えている。

【質疑応答・意見】

<田中委員>

どのようなサポートを期待しているかなど、団体側の意向を確認するアンケートを実施したことはあるのか。また、現在サポートセンターに所属している方はどのくらいいるのか伺いたい。

<平野主査>

定期的に講座についてのアンケートと施設を利用している方向けのアンケートを実施し、その声を吸い上げて事業等に反映している。それ以外に、区民まつりに出向き、認知度調査を実施している。

現在は、約 1,900 の登録団体がいて、その団体に向けてサポートをしている。

<田中委員>

サポートセンターの職員数も伺いたい。

<平野主査>

プロパー職員 5 人、臨時職員 22 名がシフトで勤務している。

<宮島委員>

伴走支援をしながら団体の立ち上げ等をフォローアップしていると説明があったが、どのくらいの期間のフォローが必要とされているのか、また、団体が立ち上がったからの活動に対してのフォローアップはされているのか。

<平野主査>

最長ですと、1年一緒に活動状況を追っていった団体がある。初めはメールでの相談から始まり、会を立ち上げて、その団体に必要な講座や交流イベントの紹介、チラシの作り方も相談を受け一緒に作っていくなどの支援を行い、約1年かかった。その団体はかなり会員も集まり、サポートセンターを飛び出して有料の施設で大きな会議を実施するところまでになった。

一方で、相談に対して回答をしても、それっきり音沙汰がなくなってしまう団体もいて、定期的に電話やメールで近況を伺うが、音信不通になる団体も多い。

<宮島委員>

相談があっても途中でそれっきりになってしまう団体がいるということだが、そのような団体は軌道に乗る団体に対してどのくらいの割合になるのか把握されているのか。

<平野主査>

具体的な統計はとっていないが、補助金や助成金ありきで立ち上げようとしている方や、すでに似ている団体があるが新しく団体を立ち上げようとしている方は、その後なかなか続かない傾向にあると、私自身が相談を受けていて感じる。

<澁谷委員>

事前質問⑬の社会教育施設との連携について、ご回答いただいたが、相互の連携を図るために、具体的にどんな取り組みをイメージされているか、もしあれば教えていただきたい。

<平野主査>

例えば、公民館で出張講座や出張相談会を行い、徐々に入っていくというのが挙げられるかと思う。また、公民館と当施設で行っている講座で類似しているものがあれば共同で開催していくというのも一つかと思う。

公民館のサークルの方々は自分たちの中での活動がメインとなっているので、なるべく外に向けた活動や他の団体との交流を促していくと活動の幅が広がり、公民館と私たちとが連携をしていく意味があるのではないかと思う。

<石川副議長>

センターが創設されてからかなり時間が経っているが、利用者層や市民団体の皆さんの意識的なものに何か変化はあるのか、現場感覚になると思うが、お伺いしたい。

また、指定管理者による運営で任期があるが、市民団体の方に伴走支援を行う上で、この任期をどのように捉えていて、事業者が変わる可能性がある中で伴走支援が持続的に可能なかどうか、こちらも現場感覚になると思うが可能な範囲で意見をお聞きたい。

<平野主査>

西口に新しい市民会館うらわもできているとおり、いろんな方が来館されている。私たちが管理委託を受けたときがコロナ禍の時で、令和4年度の来館者数は約311,000人くらいだったが、令和7年度は約397,000人と少しずつ増えている。

管理を受託した時にさいたま市文化振興事業団が持っている芸術文化の推進をするノウハウを市民活動団体にも少しずつ提供をしていき、徐々に浸透していると思うが、やはり5年間というのは短いと思っている。例えば、夏祭りパネル展は毎年行っている事業だが、最初の1、2年目はほとんど団体が集まらなかった。3、4年目でだいたい集まってきて、今年は団体の方から「参加したい」とアプローチを受けることが増えています。そのような団体との交流や意思疎通を考えると5年というのとはなかなか難しいのではないかと考えている。

<梶野議長>

資料3-4の3ページに登録要件があるが、全員または全体の何割かが市民であれば登録できるという基準はあるのか

<平野主査>

さいたま市を中心に活動していて、代表者が市民の団体に登録いただきたいと思う。

<吉川委員>

地域の自治会や民生委員の方たちと連携をとった事例があれば教えていただきたい。

<平野主査>

具体的な事例はないが、定期的にラウンジで話し合いの活動をしていただいたり、印刷作業室を活用していただいたりしている。

また、今年度の事業としてまちづくりコーディネーター講座を開催するので、そこでいただいたご質問も課題にして講座を進めていければと考えている。

(イ) グループワーク（発表）

<Aグループ（発表者：澁谷委員）>

Aグループでは、生涯学習ビジョンの「人づくり」「つながりづくり」「まちづくり」の観点からで議論を行った。

「人づくり」について、社会教育の分野では、近年、社会教育士の制度化が進み、多くの人材が育成されようとしている。こうした有資格者を地域づくりや地域活動の推進に活用し、地域の担い手を育てていくことが重要ではないかという意見があった。また、本日説明いただいた市民活動サポートセンターのまちづくりコーディネーター育成の取組も参考になるものであり、今後さらに展開していくことが望ましいと考える。地域には育成会など、さまざまなつながりづくりを実践している団体がある

ため、社会教育士やまちづくりコーディネーター等を派遣し、活動を支援していく視点も必要であるとの意見があった。また、公共施設利用に関する分かりやすいガイドラインを整理・発信することで、市民がより活動しやすくなるのではないかという意見も出された。

次に、「つながりづくり」についてである。特に子どもや若者など、次世代を担う人たちをどのように地域活動や社会教育に巻き込んでいくかが大きな課題であるとの意見があった。従来の公民館活動はシニア世代や趣味サークル中心となる傾向があるが、市民活動サポートセンターでは土曜チャレンジスクールなどに展開可能な取組があり、学校との連携も進めているとのことなので、子どもや若者が参加しやすい社会教育の仕組みづくりが必要であると感じた。

また、人とのつながりという観点では、伴走型支援が非常に重要であるという意見が出た。市民活動サポートセンターや生涯学習関連施設で実施されている取組をさらに発展させ、市民相談窓口機能や伴走支援体制を充実させることが望ましいとの意見が挙げられた。加えて、公民館や図書館との共催事業を活性化し、市民活動への参加支援を強化する必要があるとの意見もあった。

続いて、「まちづくり」についてである。マンション居住者をはじめとする新住民をどのように地域課題へ巻き込んでいくかが重要なテーマとなった。ごみ問題など、地域ごとにさまざまな課題があるが、それらを市民主体の活動へとつなげていく橋渡し役が必要であり、その役割は市民活動サポートセンターだけでなく、社会教育施設にも期待されるとの意見があった。さらに、市民活動サポートセンターが進めている大学・企業との連携についても、公民館等の社会教育施設へ展開することで、より広がりのある地域づくりにつながるのではないかと意見があった。

最後に運営面についてである。他自治体で導入されている指定管理制度の事例を参考に、公民館運営にも柔軟な手法を取り入れることで、今後の展開が進む可能性があるとの意見があった。

< Bグループ（発表者：和田委員） >

Bグループでも、生涯学習ビジョンの「人づくり」「つながりづくり」「まちづくり」の視点から意見交換を行った。

議論の中で最も大きなテーマとなったのは「連携の仕方」であった。多様な団体や地域・組織とのつながりをつくり、橋渡しをしていくことが、つながりづくりの推進につながるのではないかという意見があった。また、多様な部署との連携や、活動分野別の登録団体同士の連携を推進していくべきではないかとの意見も出された。

さらに、まちづくりの団体同士についても、活動内容や役割、年齢層、機能など多様な観点からマッチングを行うことができれば、新たな地域活動や地域課題の解決につながるのではないかという意見があった。

また、さいたま市は非常に広い地域を有しており、区単位だけではなく、さらに細かな地域単位ごとの特性を考慮する必要があるという意見もあった。例えばフードドライブなどの取組を見ても、「寄付したい」というニーズが多い地域もあれば、「支援を受けたい」というニーズが多い地域もあり、地域ごとに状況が異なることが指摘

された。そうした地域特性を踏まえると、公民館などの身近な社会教育施設の果たす役割は大きく、デジタル機器の利用が困難な方への情報提供という点でも、公民館は重要な拠点になるのではないかと意見があった。

また、活動成果をどのように発信するのか、どのような支援が可能なのかを積極的に示していくことで、新たな連携につながるのではないかと意見があった。

今回のお話で特に印象に残ったのは、市民活動サポートセンターによる伴走支援であった。市民は「やりたいこと」に対する意識は高いが、それを具体的な活動に結び付けるためには、どのように仲間を集め、合意形成を図り、活動を進めていくかという支援が必要であり、その過程自体が学びであり、生涯学習の一つであるという意見があった。

また、スタッフの役割についても重要性が指摘された。AI が個別相談に対応できる部分はあるものの、人と人をつなぎ、新たなつながりを構築していく役割はスタッフならではのものである。一方で、そのようなつながりづくりには時間がかかるため、指定管理者制度等によって職員が入れ替わる場合、培われたネットワークやノウハウをどのように継承していくかが課題であるとの意見が挙げられた。

(ウ) 本日のまとめ

<石川副議長>

本日、市民活動サポートセンターの取組について学び、二つのことを感じた。

一つ目は、小さな拠点や人と人とのつながりの重要性である。市民活動サポートセンターは市内全域を対象とした広域的な活動を行っているが、その基盤となるのは、一人ひとりの活動や問題意識、人と人との関係性であると感じた。大きな組織や団体の活動だけでなく、個々の関係性から活動が広がっていくことの大切さを改めて認識した。

二つ目は、生涯学習ビジョンの実践についてである。今後ビジョンが策定されたとしても、それをどのように現場へ落とし込み、具体的な活動につなげていくかが重要である。理念や理想像を示すだけでなく、現場で市民と向き合う方が活用できる形にしていくことが必要であると感じた。

<梶野議長>

本日は市民活動サポートセンターの取組について話を伺い、生涯学習のあり方について改めて考える機会となった。

生涯学習という言葉は、1990 年に制度化された当初と比べると、大きく意味合いが変化してきていると考える。かつては余暇活動や趣味、教養、生きがいづくりという側面が強かった。しかし現在は、人口減少や少子高齢化の進展を背景に、生きるための学びという視点がより重要になっている。

また、行政だけで地域課題に対応することが難しい時代になっている。市民ニーズは多様化しており、それに応えていくためには市民活動、特に公益性を持った市民活動の役割がますます重要になると考える。

さらに、課題は地域によって異なり、例えば、昔からの住民と新たな住民が共存する地域においては、地域の公共性をどのように再構築していくか、新しい住民をどのように地域活動へ取り込んでいくかが課題となる。こうした現実の地域課題に照らして、「人づくり」「つながりづくり」「まちづくり」を改めて考えていくことが、今後の生涯学習ビジョンに求められる視点ではないかと感じた。

4 連 絡

生涯学習ガイドブックの配布について、説明した。

5 閉 会

以上

A グループ

子ども・若者

地域（つながり）

人の育成・活用

社会教育士
(有資格者)の
活用をすすめる

育成会事業との連携
・講師派遣
・事業実施
・継続性を見据えて

まちづくり
コーディネーターを
公民館にも

センター・施設を
使う（活用する）
ための「簡単」な
案内（資料）など

新住民の
とり込み

地域課題から
市民団体へ
つなげる橋渡し

地域課題の
解決
(ゴミ問題)

大学・企業との
連携を公民館にも
つなげる

中学(土曜チャレンジ)
での取組との連携
(SDGs 学習)
講師派遣や講座実施

子ども・若者が
参画するしくみ

人のつながり

活動の立ち上げに
あたっての事例の
紹介・共有の場
(機会)づくり

サークル
市民活動団体に
高めていく支援を
充実させる方策

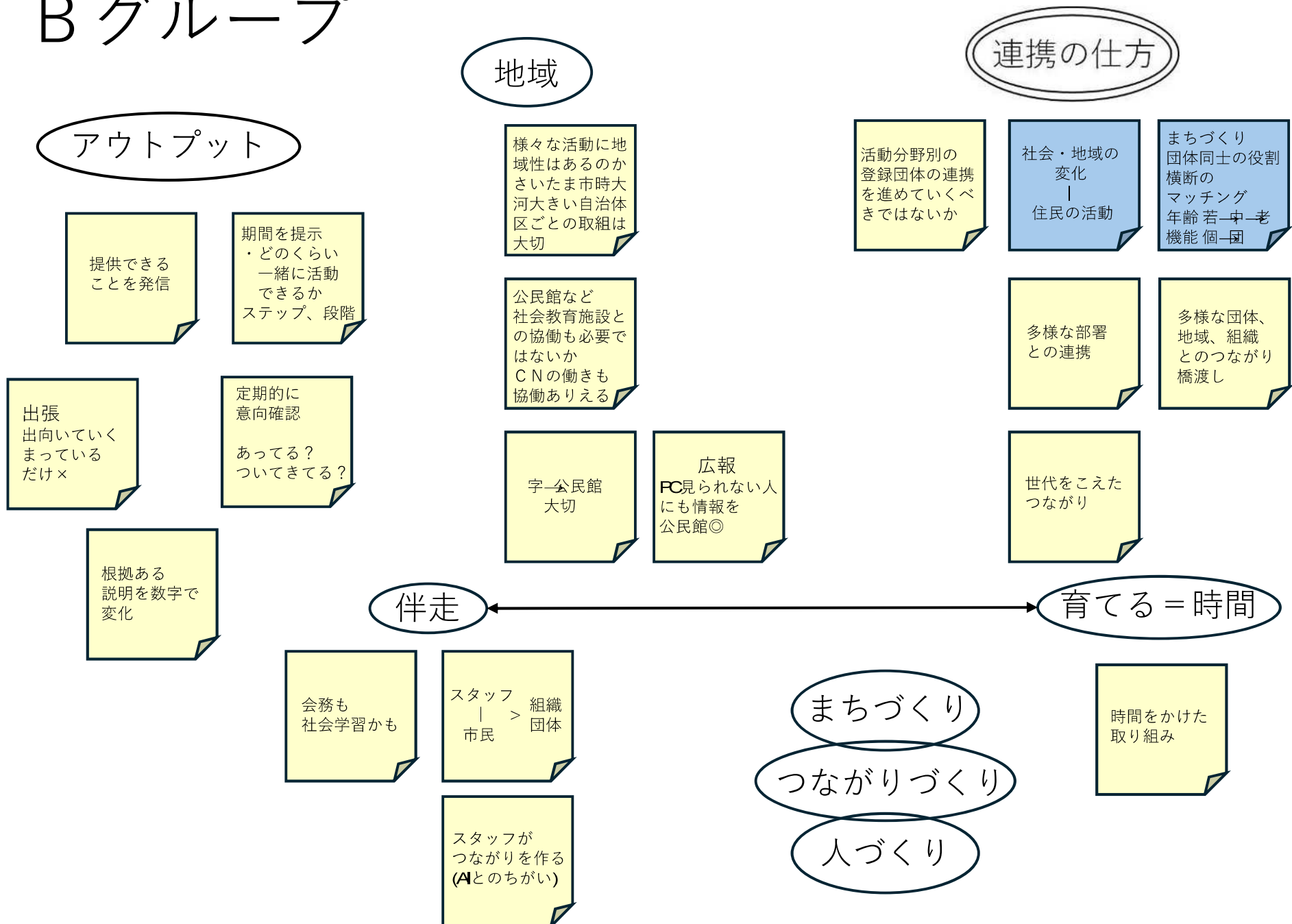
市民からの
相談窓口・対応
(伴走)の連携：
サポートセンター
えらべる

公民館・図書館と
サポートセンターの
共催事業・イベント

運営のしくみ

公民館の
指定管理事業化を
通じたさらなる連携

B グループ



第 13 期社会教育委員会議ワークショップ（第 3 回）について

1. ワークショップの流れ（約 90 分）

- (1) 説明 (5 分)
- (2) 事業説明・質疑応答 (25 分)
- (3) グループワーク (40 分)
- (4) グループ発表 (10 分)
- (5) 本日のまとめ (10 分)

2. 諮問事項

「さいたま市生涯学習ビジョン」の中間検証・評価及び次期「さいたま市生涯学習ビジョン」における基本方針について

3. ご発表団体

- 一般社団法人コミュニティーサポートセンターさいたま
代表理事 関根 広美 様（第 13 期社会教育委員）、スタッフ 永井 祐子 様

4. ワークショップの進行方法

(1) 事業説明・質疑応答（約 25 分）

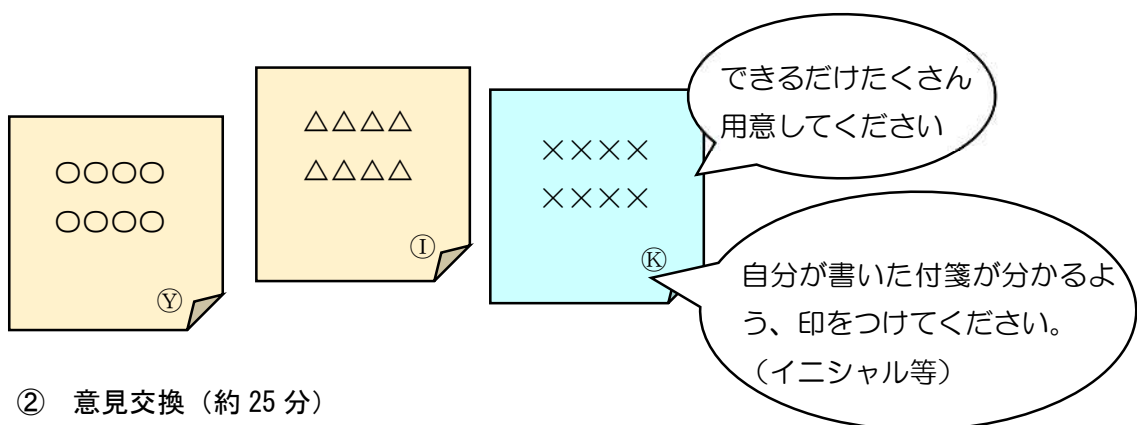
今回のヒアリング対象である団体の桜環境センター環境啓発施設における活動について、事業の概要をご説明いただき、その後質疑応答を行います。

(2) グループワーク（約 40 分）

グループ	構 成
A	梶野議長、河合委員、橋本委員 オブザーバー：坂本
B	石川副議長、岩城委員、野津委員、矢作委員 オブザーバー：柳田
C	澁谷委員、田中委員、宮島委員、和田委員 オブザーバー：山本

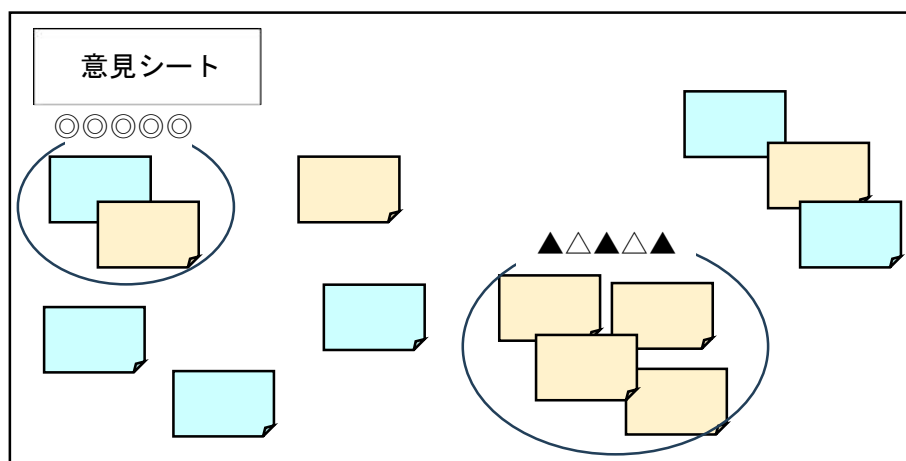
① 意見交換のための準備（約 5 分）

- まずは委員各自で、団体様からの説明を通じて、次期「生涯学習ビジョン」に取り入れたい取組やアイデアなどをフセンに書いてください。
- 説明を受けての取り入れたい取組や視点は黄色のフセン、ご説明に加えてご自身のご経験を踏まえて浮かんだアイデアは水色のフセンに記入してください。
- ご意見は 1 枚のフセンに 1 つずつ、なるべく簡潔に書き出してください。
- 今回のヒアリング対象事業自体の改善案等をお書きいただくものではありません。



② 意見交換（約 25 分）

- 各グループ内で1人ずつフセンに書いた意見をまとめシートに貼り付け、グループ内で順番に発表してください。
- 近いイメージの意見のフセンは近い位置に貼り付けるようにしてください。
- 他の委員の意見を聞いて新たに浮かんだアイデア等があれば随時フセンを書き足してください。
- 発表が一巡したら、グループ内で意見交換を行ってください。
- 同じ意見ごとにくくり、可能であれば見出しをつけてください。



③ グループ内まとめ（約 10 分）

- 各グループで発表担当を決め、グループ発表の内容をまとめてください。
- 発表担当は議長、副議長以外の社会教育委員の中から選びください。

(3) グループ発表（各 3 分程度/約 10 分）

まとめシートの内容を基に、グループごとに発表担当から発表していただきます。

(4) 本日のまとめ（約 10 分）

各グループの発表について、議長と副議長より総括を行います。

ワークショップとは、参加者の主体性を重視した形式のことで、様々な立場や考えの人がお互いの意見を理解し合い、協力して新しい発見、共通の方向性を見出す手法です。
意見を戦わせる議論や、疑問点・不明点を明らかにする質疑応答が目的ではありません。



桜環境センターでの環境啓発

【目的】

市民の皆さんが3R(リデュース・リユース・リサイクル:ものを無駄にせず、ごみを減らし、循環型社会を実現すること)に、楽しみながら気づき、毎日の暮らしにいかすこと。

【令和7年度実績】

環境啓発施設 来場者数 7855人

ビオトープ来場者 1428人

年間講座・イベント数 45件(1企画1日～1か月程度)

利用団体数 12(年間のべ活動人数 1611人)

桜リユースマーケット:

持ち込み 3295点/持ち帰り 2868点

Facebook・Instagram 120投稿/LINE 22投稿

フォロワー(令和8年7月31日現在)

Facebook702/Instagram376/LINE:341



【活動内容】

- ・「環境＝身近な暮らし」ととらえ、親しみやすいイベント・講座を開催。
- ・環境活動団体に活動場所を提供。
- ・講座に参加した市民の新たな環境活動団体の設立を支援。
- ・市民の皆さんが不要になった品物を必要な人に届ける「桜リユースマーケット」を開催。
- ・令和6年さいたま市初の環境省「自然共生サイト」に認定されたビオトープで、市民協働で地域の 自然を再生する。
- ・遊びを通じてエコの楽しさを体験してもらう。